

アジアの文化に興味があること、大学生活に新たな刺激を与えたいことを理由にマレーシア短期研修に参加しました。「マレーシア」と聞いて連想するもの、恐らくなかなか思い浮かばないと思います。しかしその実態は高度な経済成長を続け、ローカルとハイテクノロジーが共存する魅力的な国でした。

私が立てた課題は「英語力向上」「異文化理解」「適応」の 3 つです。



◎英語力向上

改めてスピーキング・リスニングの弱さを痛感しました。教室には中国、インドネシア、バングラデッシュ、タイ、エジプト、オマーン、イラクの生徒がおり、コミュニケーション手段は英語のみ。授業は週三回が午前終わり、週二回は午後までありました。内容は文法の確認、IELTS という検定試験の対策、スピーチやディスカッションをするほか、ホームワークとしてスピーチ原稿を作成したりしていました。この環境によって自分の考えを即座に英語で伝える力が鍛えられました。

◎異文化理解・適応

マレーシアの人はほとんどがムスリム。全てのイスラム文化が新鮮で、適応に手を焼いたものもありました。寮はにぎやかな雰囲気。コミュニケーションをとれば近くのコートで現地の人や留学生とバスケットボールやフットサルが楽しめます。しかしトイレやシャワーは決して快適とは言えません。食事もおいしいのですが日本ほど衛生管理が徹底していません。



“イスラム式”ということで適応能力が試されますが、慣れるとあまり問題ではなくなりました。放課後に行ったレストラン、モスク、海、ショッピングモール、その他様々な観光地…日本では体験できないことを経験できた一か月でした。



この研修で学んだもう一つの大切なこと、それは「一期一会」です。世界中から集まったクラスメイト、現地のマレー人、道案内してくれたおじさん。現在も SNS 社会の恩恵を受け、日本にいながらたくさんの人々と繋がる事ができています。人とのつながりの大切さを改めて実感した一か月でした。